



古くから伝わる芸能

八槻都々古別神社には数々の伝統芸能が伝わっています。

旧暦の1月6日に行われる「御田植」は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、町内外で良く知られています。

今回紹介する「七座の神楽」^{しちざのしんがら}「太々神楽」^{たいたいしんがら}は、「御田植」に比べあまり馴染みのないものか

もしれません。2つの神楽は、「八槻都々古別神社の神楽」として、県の重要無形民俗文化財に指定されています。

「八槻都々古別神社の神楽」は、12月に行われる霜月大祭、元旦午前0時からの歳旦祭、節分などの折に、毎回異なる演目が演じられています。



神楽 写真特集

県重要無形民俗文化財 八槻都々古別神社の神楽を追って

楽をつなぐ 人

神楽の演じ手 楽人

神楽や御田植は、社家の家々が伝承し、明治以降、演じ手は楽人と呼ばれるようになりました。映像や楽譜がなかった時代、親から子へ、孫へ。神楽は脈々と受け継がれ、今に至っています。

学長の武 家一さんに、神楽

を演じる苦勞を伺いました。「舞・太鼓・囃子。3つの一つでもずれてしまえば、神楽は上手いきません。」「楽人が一人前になるには20年かかるでしょう。演目が多いので、一通り演じるのに20年かかりますから。」





7



5



3



6



4



10



9

40を超える演目

「七座の神楽」は、巫女舞や弓舞、劔舞、獅子舞など7座からなり、東日本では珍しいものです。

「太々神楽」はより種類が多く、37座からなります。演目には、私たちが知っている「八岐大蛇」や「ひょっとこ」などが17種類の面を用いて演じ分けられています。



8

1. 劔舞：今年の元旦の神楽。大和舞とも呼ばれ、劔と鈴を手に舞っています。2. 鎮悪舞：手にしている大きな矛を振り回すダイナミックな舞です。3. 玉舞：宝玉を手に舞っているのは大黒様。4. 玉矛舞：天狗のように鼻が高い面は、「サルタヒコ」。5. 諏訪鹿島：劔、岩をそれぞれ手に争っている様子。国譲りの神話の一場面。6. 天地開闢：かき回しながら、天（空）と地を作り出しているという神話の一場面。7. 犠牲蛇退治：水面に映る「ひめ」を食べようと、酒の入った水瓶に顔を突っ込む八岐大蛇。酔いが回り、この後退治されます。8. 八岐大蛇：迫力のある彫り物を使って演じられており、口は大きく開きます。9. 獅子舞に使われる面。10. 岩戸開き：外かにぎやかなので、岩（扉）を開けてみると光が差し込むという場面。幕の後ろに照明を使いながら演出しています。11,12. 弓舞、弊舞：ともに七座の神楽の一部。



今年の御田植は2月24日

豊作を願い、旧暦1月6日に行われる御田植(国重要無形民俗文化財)。今年は2月24日(火)に開催されます。鎌倉時代から伝わる「御田植」の世界、ご覧になってみてはいかがでしょうか。



伝統をつなぐ活動

一人前になるまでに20年にかかるという楽人。伝統芸能をつないでいくことの大変さが伺えます。楽人会では、伝統芸能を後世に伝え、後継者を育成する活動に取り組んでいます。

平成20年には、すべての神楽を映像に残す取り組みを行いました。制作されたDVDは、

町立図書館で借りることができます。

地域の子ども達に、神楽や御田植を知ってもらおう取組も行っています。近津小学校の郷土史クラブでは、伝統芸能を導し、また2月に行われる「御田植」を一緒に演じています。



12